

# 尾張大会完全制覇! 四冠達成! 20年度

バスケットボール新人戦 尾張大会(準決勝・決勝)が、1月17日(土)に甚目寺総合体育館で行われた。昨年度、この大会の準決勝で苦汁を嘗めた本校であったが、今年は一味違った、新キヤプテン山下を軸に、攻撃起点となるガード湯浅からボールが出ると、とにかく繋がりがまくる。佐伯・中村・釜田・鯖田とディフェンスからリバウンドまで抜け目がない。1年生の小原・井戸田の成長も頼もしい。準決勝までをダブルスコア以上の大差で勝ち進んだ。決勝は対小牧高戦。立ち

上がりこそもたつきを見せたが、選手は慌てなかった。終わってみれば139対88の圧勝で、この大会通算8度目、そして20年度尾張大会完全制覇となる優勝を手にした。

最優秀選手には2年3組山下純也、優秀選手には同組佐伯洗平、湯浅太希が選出された。

観戦者は、後日発表された県大会の組み合わせ表を見ながら、「早く、Cブロック決勝で当たるといい。楽しみで学園戦が見たい。楽しみでたまらない!」と語っていた。

## 8度目の優勝



《1回戦》	弥富 20	大山 0
《2回戦》	98	大成 44
《準々決勝》	141	滝 56
《準決勝》	102	丹羽 45
《決勝》	139	小牧 88

### 最優秀選手 山下純也

君 振甫中

### 優秀選手 佐伯洗平

君 昭和椿中

### 優秀選手 湯浅太希

君 美和中



### V16男子 野村主将

### 「名岐も上目指す」

男子は試合前からAチームとCチームの激戦が予想された。1区はスタートから、5000m 15分台前半のベスト記録を持つAチーム割田を、Cチーム原塚と津島北高がマークする展開。最初から最後までペースメーカーにされてしまった割田を、中継点手前で2チームがかわり、1位津島北、1秒差の2位でCチーム原塚、更に1秒差の3位でAチーム割田と続く2区へ。



2区は成長著しいCチーム折橋が、持ち前のスピードを生かして、あつという間に津島北をかわしトツプに躍り出た。Aチーム滝本は腰に不安を抱えながらも、ここで大差をつ

### 尾張駅伝 男女Vの弥富高校

中日新聞

一宮市千秋町佐野の県一宮総合運動場を発着点に十八日開かれた第五十六回尾張駅伝競走大会(愛知陸上競技協会尾張支部、中日新聞社主催)。選手たちは仲間の声援を受けて元気に走り、三部門の大会新記録、四つの区間新記録が生まれた。

高校女子の部では、弥富が全区間で区間賞を獲得する盤石のレースを展開し、大会新記録で二年連続の優勝。この大会を目標に練習に励んできたという三年大野主将は「このチームで走れたことがうれしい。全員の力で勝ち取った一勝」と笑顔を見せた。

高校男子の部で十六連覇を果たした弥富Aの三年野村主将は「ペアで優勝できてうれしい。(来月)名岐駅伝でも上を目指したい」と話していた。(吉光慶太)



けられるわけにはいかない。射撃圏内にとらえる粘りで、16秒差の3位で3区へ。

3区に入るとCチーム、これまた1年生の成長株水谷が必死に逃げる。5000m 15分40秒台のベスト記録を持つ水谷は、ここでAチームをあきらめさせるため、つつこんだ。しかし、Aチーム鈴木木谷のつこみはそれを上回った。1km 2分56秒。2位の津島北をかわすと、さすが3年生と言わせるプライドをかけた走りです。5km付近、ついにCチームをとらえた。すさまじいデッドヒートの末、トップでCチーム水谷、区間賞を取ったAチーム鈴木木谷が1秒差で4区へとつないだ。

4区は故障の癒えた2年生対決となった。走ることでできる喜びを、体全体で表しながらAチーム杉山が、ついに先頭を奪う。それに食らいつくCチーム松本。アンカーへはAチーム杉山、4秒差で津島北、さらに13秒差でCチーム松本の順でタスキが渡った。区間賞は、僅差でDチーム木村がさらった。

5区に入ると、ここまで5000m 14分台のエース野村を温存してきたAチームの独壇場となった。追う展開を想定していたAチームは、

前区までの激走でアンカーを楽にさせたのだ。16連覇の思いを運び、野村が優勝のゴールテープを切った。2位には56秒差で津島北、更に33秒差でCチームが3位に入った。Dチームは5位。

### 連覇女子 大野主将

### 「全員で勝ち取った」

女子は、「全区間・区間賞!大会新記録で連覇!」が目標の本校が、他校を圧倒した。

1区は故障から立ち直り、好調の1年生加藤が重責を任せられた。落ち着いた走り序盤は集団を形成したが、中盤からはサブバイバルレース。後続が一人ずつ落ちていく先頭を引っ張ったのは加藤だった。終盤は一人旅になり、2位に47秒の差を付けて2区へ。

2区は昨年と同じ区間を任せられた、2年生田中。昨年の自分の区間タイムを17秒も縮める走り、後続との差を1分5秒に広げる。

3区。ここに3年生、エースの大野が来た。故障を押しでの出場だったが、さすがチームの柱。2位津島北との差は2分3秒に開き、勝利をほぼ決定づけた。

4区はスピードのある1年生坂口。ここからは大会記録との闘い。冷静に走り、区間賞を獲得。更に2位との差も2分7秒に広げる。

アンカーも故障を克服した、2年生の一番ヶ瀬。故障上がりとは思えない快走で、ミッション・コンプリート。『全区間・区間賞!大会新記録で連覇!』のゴールテープを切った。2位津島北に、2分22秒の差を付けての完勝であった。